

◇はじめに

<全経簿記検定 1 級(会計) 得点の目安>

1 企業会計原則の穴埋め (1 問 2 点×10 問=20 点)

2 仕訳 (1 問 4 点×6 問=24 点)

3 計算問題等(割賦・建設業・外貨建て…等) (8~12 点)

4 主に本支店会計 (10~12 点)

5 損益計算書作成+貸借対照表(一部) (32~36 点)

◇仕訳(第2問)対策

【仕訳 演習問題】

次の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も正しいと思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	売掛金	買掛金
未払金	有価証券	投資有価証券	預り有価証券
保管有価証券	差入有価証券	借入金	未収金
固定資産売却損	固定資産売却益	備品	修繕費
建物	新株式申込証拠金	別段預金	車両
建物減価償却累計額	車両減価償却累計額	有価証券利息	社債
社債利息	資本金	社債発行費	未払利息
受託販売	利益準備金	資本準備金	社債発行費償却

1. 当社は、取引先コスモス商店から現金¥1,500,000を借り入れ、担保として売買目的で所有する株式200株(帳簿価額¥1,900、時価¥2,300)を差し入れた。
2. 残存耐用年数12年の建物(取得原価¥26,800,000、減価償却累計額¥12,542,400)の大規模な改修が完了したので、建設会社に改修費¥6,700,000のうち¥5,500,000小切手を振りだして支払い、残額は翌月末に支払うこととした。なお、当該改修の結果、改修後の耐用年数が8年延長した。
3. 当社は、取締役会の決議により、未発行株式のうち5,000株を1株当たり¥2,900で公募により発行することとした。当該新株の公募に対して、払込期日前に7,000株の申し込みがあり銀行の別段預金に払い込みがなされていたが、本日払込期日につき、応募株式7,000株について割り当てを行い、その払込人に割り当ての通知をするとともに、割り当てもれの申込人には、申込証拠金を払い戻した。なお、払込価額は、当座預金に振り替え、払込価額の2分の1を資本金に組み入れないこととする。
4. 当社は旧営業車(取得原価¥2,300,000、減価償却累計額¥1,656,000、記帳方法：間接法)を¥800,000で下取りに出して、新営業車(定価)¥2,560,000を小切手¥1,760,000振出しにより購入した。なお、旧車の査定価格(売却時価)は¥700,000である。
5. 当社(決算日3月31日)は、当期2月1日に、額面総額¥30,000,000、発行価額¥100につき¥97.30、償還期限5年、利率年1.3%(利払日は1月末の年1回)の条件で発行した社債について、決算にあたり、必要な整理を行う。なお、額面価額と発行価額の差額は、金利の調整であり、償却原価法(定額法)による。また、社債発行費¥360,000は、5年で定額法により繰延処理する。

◇外貨建取引

例題 A)

- ① 9/6 商品を\$1,000 で仕入れ、代金は掛とした。(この時 \$1=¥100)

- ② 9/30 上記①の掛代金を、全額普通預金を通じて決済。(この時 \$1=¥98)

例題 B)

- ①1/23 商品\$2,000 の注文を受け、内金として\$1,000 で受け取り、普通預金とした。(この時 \$1=¥100)

- ②2/3 商品\$2,000 を発送。\$1,000 は以前受け取った内金を充当し、残額は掛けとした。(この時 \$1=¥102)

- ③3/31 決算を迎えた。(この時 \$1=¥103)

【外貨建取引 演習問題】

演習 1

さくら会社(決算日 3月31日)は、平成23年3月4日に米国企業から商品\$65,000を掛けて仕入れた。その後、3月20日に買掛金\$28,000を米国にある取引銀行の普通預金口座から支払い、残額は未済のまま決算を迎えた。為替レートは下記の通りである。

当該外貨建取引について、(1)取引発生日、(2)決済日、および(3)決算日の仕訳を示し、(4)買掛金期末残高の金額を求めなさい。

3月04日 \$1あたり¥113

3月20日 \$1あたり¥110

3月31日 \$1あたり¥111

(1) 3/4	
(2) 3/20	
(3) 3/31	
(4)	

(5)また、翌期(平成23年4月20日)に、残る買掛金を普通預金にて決済したときの仕訳を答えなさい。

[4月20日の為替レートは\$1あたり¥112とする。]

(5) 4/20	
-------------	--

演習 2

当社は、過日、米国にあるS社から特定商品の注文を受け、内金として\$2,000を受け取っていたが、本日S社に注文商品\$17,000を発送した。なお、内金受領時と商品発送時の為替レートは、\$1あたり¥73と¥78である。

例題 2	
------	--

◇建設業会計(第3問)対策

☆どのタイミングで“売上”と捉える(認識する)か。

①工事完成基準 …完成、引渡し=“売上”

②工事進行基準 …工事の進み具合(進捗)に応じて=“売上”

※成果の確実性が認められるときは②

「成果の確実性が認められる」とは、
工事収益総額、工事原価総額、決算日における工事の進捗度が
信頼性をもって見積もることができる場合のことを指す。

何で計るか…

ex)全部で100の原価が発生する…という見積の工事。
当期に10の原価が発生。

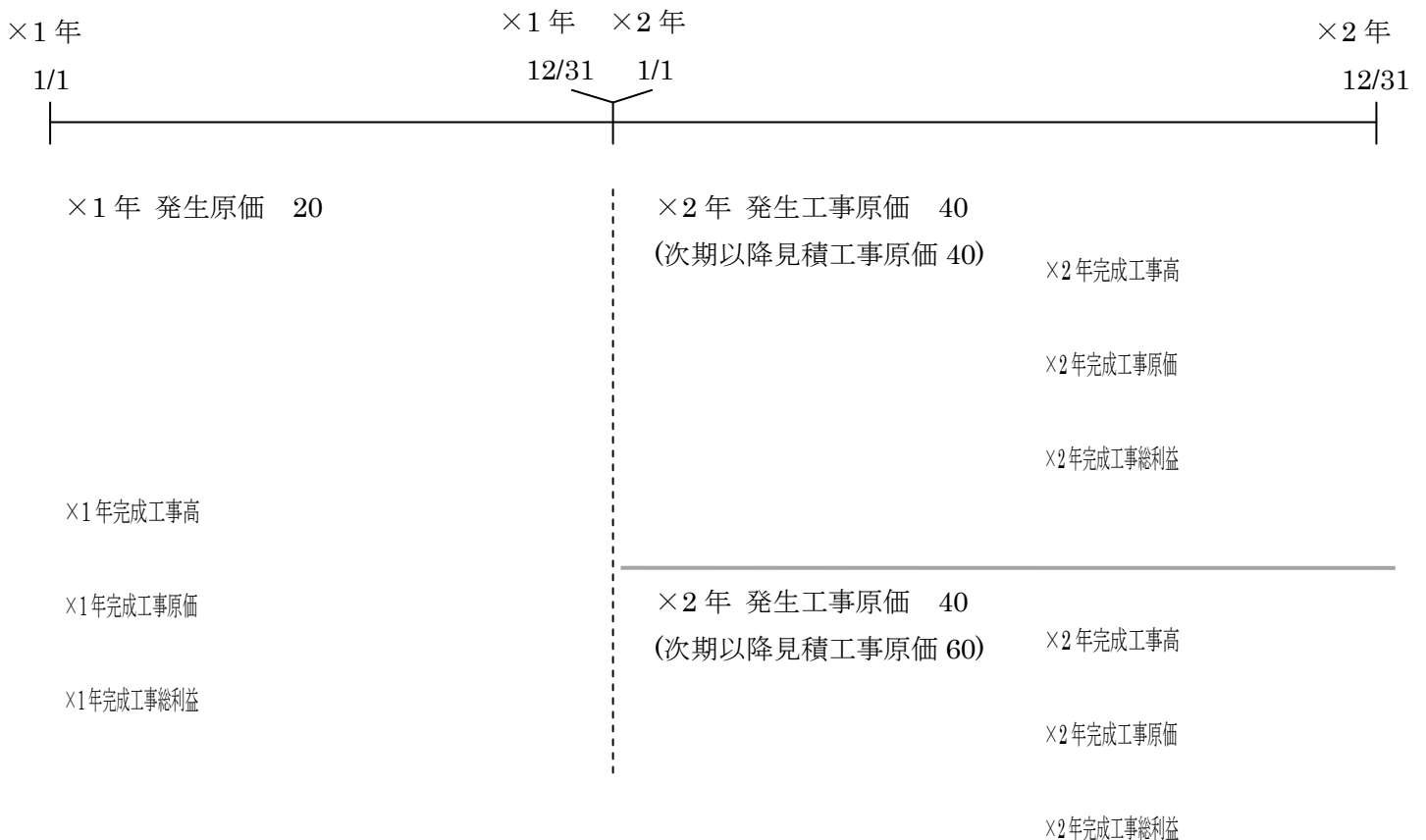
ちなみに…

売上高 ≒
売上原価 ≒
売上総利益 ≒

例題 A)

請負価格：300 着工日：×1年8/1

見積工事原価：100 引渡し予定日：×4年7/31



【建設業会計 演習問題】

さくら建設会社(決算日 12月31日)は、価格確定契約により次のA、BおよびCの3つの工事を請け負っている。
 (1)全ての工事契約について成果の確実性が認められるものとして、工事進行基準(進捗度は原価割合による)による場合と(2)全ての工事契約について成果の確実性が認められないものとして、工事完成基準による場合の当期(×23年1月1日～×23年12月31日)における完成工事高、完成工事原価、および完成工事総利益を求めなさい。

	A 工事契約	B 工事契約	C 工事契約
工事着工日	×22年1月5日	×22年5月13日	×23年2月7日
工事完成引渡(予定)日	×23年12月22日	×24年8月1日	×25年3月9日
請負価格	34,700,000	87,390,000	25,000,000
前期発生工事原価 (次期以降見積工事原価)	16,128,000 (12,672,000)	14,300,000 (40,700,000)	-
当期発生工事原価 (次期以降見積工事原価)	12,722,000 -	25,660,000 (15,540,000)	7,488,000 (11,712,000)

答案

	工事進行基準	工事完成基準
完成工事高		
完成工事原価		
完成工事総利益		

◇商品有高帳(第3問)対策

【商品有高帳 演習問題】

さくら商事株式会社は、当期中 P 商品を次の順序で仕入れ、販売した。当該 P 商品に係る当月の売上高、売上原価、売上総利益および月末棚卸高を、(1)先入先出法、(2)移動平均法により求めなさい。ただし、棚卸減耗はない。

	数 量	単 価	金 額
前 月 繰 越	300 個	¥ 120	¥ 36,000
第 1 回 仕 入	500	128	64,000
第 1 回 売 上	700	500	350,000
売上値引(第1回売上分)		20	14,000
第 2 回 仕 入	375	144	54,000
第 2 回 売 上	275	530	145,750
売上戻り(第2回売上分)	5		

答案

	先 入 先 出 法	移 動 平 均 法
売 上 高		
売 上 原 価		
売 上 総 利 益		
月 末 棚 卸 高		

◇減価償却(第3問)対策

【減価償却 演習問題】

さくら運輸株式会社(決算日は年1回3月31日)は、当期7月1日に、トラック2台を購入し、ただちに営業の用に供した。当該トラックはいずれも、取得原価¥32,000,000(残存価額¥2,500,000、耐用年数10年、総走行可能距離は450,000kmと見積もられた)。当期の実際走行距離はトラックAが54,000km、トラックBが36,000kmであった。これより、当該トラックの当期の減価償却費を(1)定率法(償却率0.226)と(2)生産高比例法によって求めなさい。

答案

(1)定率法による減価償却費

(2)生産高比例法による減価償却費

◇割賦販売

☆どのタイミングで“売上”と捉える(認識する)か。

①販売基準 …引渡し＝“売上”

②回収期限到来基準 …回収期限が到来したら、到来した分だけ＝“売上”

③回収基準 …回収したら回収した分だけ＝“売上”

例題 A)

さくら株式会社(決算日 3/31)は、2/15 に商品¥3,000(原価¥2,100)を 3 回の均等分割払いで売り上げた。代金は、翌月より毎月 15 日に現金で回収する。

【割賦販売 演習問題】

さくら商会は割賦販売のみを行っている。割賦販売の収益の認識については、回収期限到来基準を採用し、割賦品を引渡したときに、その総額を持って売上計上し、決算時に回収期限未到来の割賦売掛金に含まれる未実現利益相当額を売上総利益から控除する方法によっている。次の資料に基づいて、損益計算書(売上総利益の表示まで)を完成しなさい。

- (1) 割賦販売の売上利益率は、前期および当期とも 36%である。
- (2) 割賦売掛金期首残高は、¥5,571,000 である。これらはすべて前期に発生した割賦売掛金である。
- (3) 割賦売掛金の当期発生額は、¥32,100,000 である。
- (4) 割賦売掛金期末残高は、¥9,121,000 である。このうち¥1,521,000 は前期に発生した割賦売掛金である。
- (5) 当期中、割賦金の回収不能や割賦商品の戻りはない。

答案

損益計算書	
I 売上高	()
II 売上原価	()
割賦売上利益控除前売上総利益	()
繰延割賦売上利益戻入	()
割賦売上利益控除	()
売上総利益	()